

第五章

結論及び今後の課題

A. 結論

本章では現代女性語、特に『薔薇のない花屋』のドラマ、『私たちのジハード』の小説、『ふたりはプリキュ』の漫画における女性が使用する女性専用の文末詞に対する研究の結果として、次のことがまとめられる。

1. 女性専用の文末詞はたいてい丁寧体でない普通体のみ扱う。これはデータの中での丁寧体の使用が極度に少なかったことが明らかになった。本研究で分析する日常会話はだいたい仲の良い友人同士の会話であり、親しい間柄なので、丁寧体（です・ます体）は避けていると考えられる。日常会話では親しさを強調することが多いため、丁寧体を避けたスタイルが好まれることと思われる。女性が丁寧体（です・ます体）で女性専用の文末詞を使用するのは、特定の場面だけで用い、例えば、目上の人や年上人の相手に対する発話である。

2. 「薔薇のない花屋」のドラマ、「女たちのジハード」の小説、「ふたりはプリキュ」の漫画における女性が使用する女性専用の文末詞「かしら・の・もの・もん・よ・わ・」は断定を避け、命令的でなく、自分の考えを相手に押しつけない言い方をする、という機能を持っている。女性登場人物が用いる女性専用の文末詞は、上品さや女っぽさとリンクし、登場人物のイメージやことばを柔らかくする働きである「ソフト機能」が作用している。女性専用の文末詞は女性の発話にとって、日本語での表現を表すために大切な役割を持っていると言われる。

3. 女性は砕けた場面で、年下人及び親しい関係を持っている相手に対する、女性専用の文末詞を使用する。特定の場面で、目上の人や年上人の相手に対して改まった場面での使用する女性専用の文末詞もある。

「薔薇のない花屋」のドラマ、「女たちのジハード」の小説、「ふたりはプリキュ」の漫画における女性専用の文末詞の使い分けは女性の年代だけから見られる。機能や文体からの女性専用の文末詞の使い分けが見られない。「薔薇のない花屋」のドラマに、10代の女性は中性化のことばを使用する傾向があって、「かしら」「わ」全然使用しない女性専用の文末詞もある。これに対して、「ふたりはプリキュ」の漫画に10代の女性の登場人物としても、特定の場面で友達同士の相手に女性専用の文末詞を使用する。10代の女性は20代以上の女性より中性化の日本語を使

用する傾向が見られる。年代が上がれば上がるほど、女性専用の文末詞を多く用いるということがまとめられる。

B. 今後の課題

本研究ではドラマ、小説、漫画における機能、文体、社会要素と関係の使用の女性専用の文末詞について記述した。しかし、女性専用の文末詞に関して今後の研究が必要だと思う。例えば、一つの女性専用の文末詞は他のと代入することができるか、またはドラマ、小説、漫画における女性専用の文末詞と実際の女性が使用する女性専用の文末詞はどのようなことであるかに関して明らかにしたい。